

12/20 朝日

# 防衛費25%増 6.8兆円

## 「トマホーク」取得に2113億円

### 来年度予算案

#### 2023年度 盛り込む主な事業

長射程ミサイル	
12式地对艦誘導弾（能力向上型）の量産	939億円
島嶼（とうしょ）防衛用高速滑空弾（同）の開発	2003億円
極超音速誘導弾の研究	585億円
米国のミサイル「トマホーク」の取得	2113億円
統合防空ミサイル防衛	
イージス・システム搭載艦	2208億円
無人機	
多用途・攻撃用無人機の取得	69億円
偵察用無人車両の取得	81億円
その他	
弾薬の製造ライン強化	1618億円
次期戦闘機の開発	1054億円
防衛装備品の輸出促進基金など	400億円

政府の2023年度当初予算案で、防衛費は前年度の約1・25倍に増え、過去最大の約6兆8千億円になる見通しになった。相手の領域内にあるミサイル発射

拠点などを直接攻撃する「敵基地攻撃能力（反撃能力）」に使われる米国製巡航ミサイル「トマホーク」の取得に2113億円を計上する。▼1面参照

複数の政府・与党関係者が明らかにした。23年度は、政府が16日に閣議決定した国家安全保障戦略など安保関連3文書のうち、「防衛力整備計画（23～27年度）の1年目にあたる。5年間の防衛費は総額43兆円で、5年目となる27年度の防衛費を「8兆9千億円程度」としており、23年度から増額が始まることになる。改定された国家安全保障戦略によると、敵基地攻撃は「スタンド・オフ防衛能力」を活用して行われる。スタ

ンド・オフ防衛能力は敵の射程圏外から攻撃できる長射程のミサイルで、23年度の防衛費では強化する柱の一つ。トマホークは米軍が湾岸戦争などで使用し、国産ミサイルが配備されるまでの間、主力と位置づけられる。政府は26年度に部隊へ配備したい考えだ。

政府は敵基地攻撃能力について、ミサイル防衛構想「統合防空ミサイル防衛（IAMD）」に組み込む考えを安保3文書で明記。これに基づき、23年度には、敵のミサイルを迎え撃つ「イージス・システム搭載艦」の早期建造に向けて、2208億円を計上する。

このほか「多用途・攻撃用の無人機」（69億円）、「偵察用無人車両」（81億円）などの取得費を計上。防衛省が攻撃用無人機を取得すれば初めて。実証実験した上で、部隊配備を目指す。

防衛装備品の輸出促進を図るために新設する「基金」には約400億円を計上する。新たな「防衛力整備計画」では、防衛装備品の輸出について「同盟国、同志国との実効的な連携を構築し、現状変更を抑制するための外交・防衛政策の戦略的な手段」と位置づけた。この方針を実現するため、基金をテコにしたい考えだ。（松山尚幹）